

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102010		
法人名	社会福祉法人 仁成福祉協会		
事業所名	グループホーム しんせい		
所在地	新潟市江南区曾川甲1333番地1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	令和5年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 特別養護老人ホームに併設しており、現在はコロナウィルス感染防止のため中止となっていますが、誕生会などのグループホームだけでは出来ないことも実施しています。
2. 現在はコロナウィルス感染防止のため行っていませんが、行事などでは様々なボランティアさんの参加協力を得て、外部の方達と接点を持つ良い機会となっております。
3. 誤嚥性肺炎の予防のため口腔ケアに力を入れ、食事の前に口腔体操を行っています。訪問歯科の先生の支援を受けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市の郊外に同法人が運営する特別養護老人ホームに併設して建てられている。周囲は自然が多く、園内も広い事から利用者は日々四季を感じながら過ごすことができている。

運営する法人は、グループ内の医療・福祉と連携を図り、各部署において充実したサービスの提供を実施している。事業所は法人の協力体制を受けながら、安定した運営が行われている。本来目指している地域との連携については、現在はコロナ禍の状況の中で自粛せざるを得ない状況にあるが、少しずつ解除に向けた取り組みが検討されている。

事業所は今年7月に管理者が交代し、新たな体制のもとで運営に取り組んでいる。管理者は風通しの良い職場づくりを目指し、職員が生きがいを持って同じ方向でサービス提供にあたることが利用者にとっても居心地よく楽しく過ごせることにつながると考え、職場づくりに取り組んでいる。

コロナ禍で外出が制限されている中、利用者にとっては食事やおやつが大きな楽しみとなっているため、「美食クラブ」と名称し、月に1回おやつづくりや、テイクアウトを活用して食を楽しんでいる。季節に合わせて桜餅や笹団子づくり、賑やかなたこ焼きパーティー、ハンバーガーや丼物をテイクアウトしたり、誕生会にはホールケーキを作る等、食を楽しむことが支援されている。また、一人ひとりの生活歴から入居後も習字や編み物等の趣味活動、食事作りの手伝い、ベッドメイキングなどの役割りを担い、生きがいを持って生活することを支援している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体で理念を共有できるように、毎年度末に部会内で話し合い、結果を部会録に残している。	理念・方針は玄関に掲示しており、職員は日頃から確認している。理念・方針を振り返る機会として、年度末の部会(事業所内職員会議)で話し合いを行っている。しかし、事業所が目指す方向性として理念を共有することや、全職員が心の拠りどころとしてケアの実践が行えているのかは確認できていない。	地域密着型サービスとしての事業所の目指すところを確認しながら、今後は家族・地域にも発信していくことを望みたい。また、全職員でさらに理念・方針について共有と振り返りを行う機会を持ち、日々ケアの実践に迷ったときにも拠りどころとなるように取り組んでいくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止のため中止しているが地域交流会や地域の茶の間、資源回収の参加していた。地域コーディネーターさんを通じて向かいの小学校の行事にも招待して頂いていた。去年は小学校の文化祭に作品のみ展示させてもらった。絵手紙教室さんと時候の挨拶のやり取りをしている。	コロナ感染拡大防止のため、地域との交流は現在も自粛している。以前は小学校と交流したり、施設主催の夏祭りに地域住民が参加するなどの交流の機会があり、ボランティアの受け入れや地域活動にも参加していた。事業所は感染状況を踏まえながら、小学校の文化祭への作品出展など、地域交流の再構築に向けて取り組み始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナウイルス感染防止のため実行できていないが地域の行事・交流会に参加することで情報発信を行っている。平成28年には地域の方々にむけてホームの説明会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルス感染防止のため開催を中止している。報告書を関係者に郵送している。	コロナ感染防止を踏まえて運営推進会議も書面会議で実施している。事業所の運営状況や利用者の様子を報告し、委員からも意見を寄せてもらうように働きかけている。委員からは、より活動状況が分かるような報告書作成の依頼を求める意見が寄せられ改善を行った。感染状況を踏まえて、今後の開催は対面形式で行うことを検討している。会議報告は全員の家族に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員・市の介護相談員に参加して頂き意見交換していた。現在はコロナウイルス感染防止のため実施していない。生保利用者の担当ワーカーとも電話でやりとりしている。	地域包括支援センター職員を通じて行政担当者に運営状況を報告できている。現在は、市の介護相談員の派遣が自粛されているが、コロナ禍以前は、介護相談員が直接利用者と面談をして利用者の視点に立った意見等を把握し、事業所に報告されていた。現在市町村と連携できる行事・会議等の案内はないが、今後は積極的に参加していく意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人独自のマニュアルを職員に配布し、活用している。玄関の施錠、日中の開放していることの意味を新人職員入職時に説明している。研修はコロナウイルス感染防止のため参加していない。	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、定期的に事業所内研修を実施している。研修では、管理者を講師に全員で身体拘束について学び、日々のケアを振り返ることで、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人独自のマニュアルを職員に配布し、活用している。職員のストレスチェックは毎年受けている。ホーム独自で心理学を学んだ職員からストレスについての学習会をおこなった。外部の研修はコロナウイルス感染防止のため参加していない。	マニュアルの整備があり、また事業所内研修も実施している。管理者は職員がストレスを抱え込むことがないように、日頃から何でも言いやすい職場環境づくりに努めている。職員のストレスチェックについては、法人で年2回実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍前は地域包括支援センターの職員から研修をしてもらっていたが、現在はコロナウイルス感染防止のため行われていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分に説明し、理解を頂いている。解約・改定の際も同様に十分に説明している。文章で説明し、分からない場合は電話でも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。利用者様の意見は「苦情要望受付書」として記録に残し職員全員が確認・対応している。	利用者からの要望等については、日々の会話の中から引き出しを行っている。寄せられた意見・要望は「苦情要望受付書」に記載し、全職員が確認できるシステムになっている。家族に対しては、意見箱の設置を行っているが、活用できておらず、報告書やお便りを送る際に「意見書」も同封して意見を募るよう取り組んでいる。家族からは面会に関する要望が寄せられており、意見をもとに面会回数を増やすなど改善が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中から提案や意見を出し合ったり、グループホームの部会前に意見を出してもらい、話し合いを行っている。	毎月1回、部会(事業所職員会議)にて意見交換を行っている。日頃から職員が何でも話しやすい風通しの良い職場づくりに取り組んでおり、会議の前には検討事項について職員から聞き取り、話し合いを進めている。直近では効率的な業務の流れについて検討し改善が図られている。管理者は法人職員会議に出席して事業所の運営状況等を報告している。併設する特別養護老人ホームの園長も事業所に時々来て、職員からの意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホーム内で、お互いの仕事についてサポートしたり、それぞれの問題点や悩みを聞き仕事内容を改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウィルス感染防止のため限定的ではあるが、参加可能な研修への参加および施設内、グループホーム内で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウィルス感染防止のため交流は行われていないが、運営推進会議に近隣のグループホームに参加して頂き交流を図っていた。小規模多機能の運営推進会議にも参加させて頂いていた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様より要望・意向を伺い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様より要望・意向を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状態確認の連絡を行い現状把握。ケアマネ等へ連絡しご本人に「今」何が必要とされているか相談・検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が得意で人に教えていたようなこと(笹だんごの作り方、干し柿の吊るし方・・・等)を習ったり一緒に料理を作ったり職員の人生相談をしたりと相互に支えあっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナウイルス感染防止対策を講じながら面会を週3回行っている。	コロナ禍以前は事業所の行事等に家族が参加したり、一緒に外出・外食をするなど、入居後も家族と一緒に過ごす機会が多かったが、現在は限定される中での面会のみとなっている。職員はお便りの中で、利用者の写真をコメント入りで作成するなど、より利用者の暮らしの様子が伝わるように工夫している。電話の取次ぎや手紙のやり取りを支援することで、家族等との関係性が途切れぬように工夫している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている	手紙のやりとりなどで関係が途切れぬようにしている。また、携帯電話を持っている利用者様は自由に掛けたり受けたりしている。	コロナ禍以前は、友人が訪ねてきたり、馴染みの美容室に通うことが支援されていた。入居後にボランティアの理容師が月に1回整髪に来ており、新たな馴染みの関係も作られていたが、現在は職員が利用者の散髪をしている。縫物や編み物、書道等の利用者それぞれの趣味活動は継続して楽しめるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介しコミュニケーションを図ることができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あればその都度対応している。退所した方から頂いた植木を大切に育てている。また、退所後にお亡くなりになったあと、ご報告とお礼に来て下さったご家族様がいらした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から個人の希望や思い(希望)を伺い、尊重に努めている。	利用者の思いや暮らしへの意向については、日々の会話の中から把握している。なかなか言葉に表出できない利用者については、方言で話しかけたり、選択肢を示して答えやすいように工夫している。把握できた思いなどは、日々の様子と一緒にタブレット端末に入力し、全職員が確認するシステムが作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前入所後を問わず、ご本人・ご家族・担当ケアマネ等から今までの生活状況を伺い、これまでの暮らしの中で『何を大切に生きてきたのか』を知り、これからの暮らしにどうつなげていくか検討している。	入居決定後に利用者・家族と面談し、これまでの生活歴や生活習慣について把握している。在宅で介護サービスを利用していた方については、担当ケアマネージャーやサービス事業所からも情報提供を受けている。アセスメントは「包括的自立支援プログラム」の様式を使用して詳細に把握し、入居後も得意な事が継続できるように活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から得た『気付き』は記録に残し共有。日々の生活に反映させている。利用者様で1日のスケジュールを持っている人にはそれに添うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を参考に担当職員と作成担当者が原案を作成。担当者会議を行う検討・確定している。コロナウィルス感染防止のためご家族には電話で聞き取りしている。	アセスメントを踏まえてサービス計画担当者がケアプランの原案を作成している。入居1ヶ月後に見直しを行い正式プランに切り替えている。見直しを行う際には、職員から気づきや意見を出してもらい検討している。モニタリングは毎月実施し、見直しは居室担当、介護士、計画作成者で担当者会議を開催して実施している。家族には現在は電話で意向等の確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録には色を変えて時間を記入し見やすいよう工夫している。朝夕の申し送り時には情報の共有に努めている。生活記録のファイルに介護計画をコピーしたものを綴り、全職員が内容の把握と実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化やご家族の要望に合わせ、その都度職員間で話し合いをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	向かいの小学校から運動会や文化祭に招待して頂き参加させてもらっていた。月1回地域の資源回収にも参加させてもらっていた。現在はコロナウィルス感染防止のため実施できず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後グループホームの協力病院での受診を希望される方には職員が付き添い対応支援している。また、以前からのかかりつけ医を継続したい方はご本人ご家族の希望に添い行っている。	入居時に事業所での受診体制について説明を行い、協力医への受診とこれまでのかかりつけ医への受診とを自由に選択できるように支援している。現在は全員が協力医を主治医としており、職員が付き添って定期診察を受けている。受診結果については家族に記録を送付して健康状態を共有している。急変時には協力病院への相談・受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がみられた時は併設特養の看護師に相談、助言をもらっている。協力病院の看護師にも相談、助言をいただける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い、病棟へサマリー提出する。入院中は病院のMSWを通して状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期についての方針を説明している。また、退所基準についても文書を用いて説明している。なるべくご家族の意向に添った支援を基本としているが、グループホームの状況も説明、ご理解を頂いている。	入所契約時に事業所の方針を説明し、同意の上で契約に至っている。事業所では、「契約の終了又は解除と退去時の支援について」を別紙にて内容を示し、生活の場の移行が必要な状態について説明している。同時に退去時の支援についても説明し、利用者・家族が不安なく過ごせるように努めている。また、状態が変わってきた早い段階で家族に相談している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるよう、管理者による抜き打ち訓練を行っている（訓練記録に残しておく）救急隊員に引継ぎがスムーズにいくように『傷病者情報連絡票』を作成して受診ファイルに入れてある。	利用者の急変時の対応についてはフローチャートを作成し、全職員で共有できている。また、定期的に訓練を実施しており、全職員が対応力を身に付けている。各マニュアルが整備されている他、感染症予防・発生時の対応等の研修も毎年実施している。ヒヤリハットや事故報告の振り返りを行い、再発がないように検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自で、毎月日中・夜間を想定して火災・地震・水害時の避難訓練を行っている。また、非常食の消費期限が迫ったところに災害時を想定して食べている。	各種災害に対応したマニュアルを整備するとともに、定期的に避難訓練を実施して全職員が実践力を身に付けるように取り組んでいる。利用者自身にも、訓練時には座布団を被ってもらうなど、対応力を身に付けてもらえるようにしている。訓練時には民生委員も参加する時もあり、地域の協力が得られるように今後も働きかけていくこととしている。BCP(事業継続計画)の作成も法人全体で行っており、今後は全職員で確認して行く予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合わせた援助方法で対応。部屋に入る時はノックし、了解を得てから入室している。個人情報の書類は鍵のかかる棚で保管している。	全職員が、利用者一人ひとりの暮らし方や個性を大事にし、言葉かけの工夫や対応を行っている。慣れ親しんだ関係の中でも誇りを損ねることがないように意識して接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様になるべく選択肢のある質問や答えやすい問い掛けを行うようにしている。職員とも何でも言いやすい関係を築けるよう日々寄り添い、日常生活の中からも希望をくみ取り実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のご希望に添えるよう(入浴時はご本人のペースで入ってもらう等)支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ前はボランティアの美容師さんから来てもらい、希望の髪型にいらっていた。地域の行きつけの理容店に出掛ける方もいた。コロナウイルス感染防止のため現在は職員がヘアカット行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には食べたい料理をリクエストしてもらい提供している。利用者様がチラシ広告をみて、食べたい物があれば購入する時もあった。ケアプランで夕食の味噌汁作りをやってもらっている利用者様も。月1回「美食クラブ」として季節のおやつを作り楽しんで頂いている。	朝食・昼食については併設する特別養護老人ホームと一緒に食事を提供している。夕食は事業所内で献立を作成し、ネットスーパーを活用して食材を準備している。利用者も味噌汁づくりや盛り付け、野菜の下準備、後片付けなど、多くの場面で参加しており、楽しみながら食事づくりを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体の状態にあったメニューを提供している。摂取量はそれぞれチェック表に記入し、摂取量低下がある方には補食等で補って頂く様に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣にしている。状態に応じて歯間ブラシや舌ブラシ、専用ジェルを使用している。最後に職員が仕上げ磨きをする方も。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、お一人お一人に合わせた声掛けを行い誘導している。利用者様に合った声掛けをこまめに行い、トイレに行かれた時は付き添いをしている。	一人ひとりの排泄状況を把握しており、介助の必要な利用者には、時間誘導や声掛けを行いながらトイレでの排泄を支援している。一人ひとりの排泄の力に適した排泄用品を使用し、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を摂って頂き、食事には繊維質が豊富なものを取り入れるようにしている。水分を多く摂って頂く。朝のラジオ体操と歩行訓練も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人の習慣や希望に合わせて入浴していただいている。ゆっくりと時間が取れるよう配慮している。湯あたりしやすい方には入浴前の血圧チェックと浴槽内の時間も計っている。	週2回の入浴を予定しているが、その日の体調や気分に応じて臨機応変に対応している。また、午前入浴を基本としているが、状況に応じて午後入浴も可能としている。入浴についての希望も聞き取りを行っているが、回数などの要望は寄せられていない。利用者は職員とゆっくり話をしながら入浴を楽しんでいる。入浴の機会を利用して皮膚トラブルの観察等も行い、必要時には入浴回数を増やして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、利用者様の希望でテレビを観て頂く時もある。好きなテレビドラマがある日は遅くまで起きている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の内容を個別ファイルで管理し、いつでも確認することができる。頓服薬についても朝夕の申し送り時に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの飲み物(コーヒー等)を飲んで頂いている。歌が好きな方ならCDを流したり、それぞれ好きなことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止のため外出はできていないが、散歩などはなるべく希望に添えるよう配慮している。	コロナ禍以前は買い物ツアーや小学校の運動会見学、花見などの外出行事も多かったが、現在は自粛の状況にある。園内の散歩や事業所玄関前のプランターの花植え等、戸外に出られるよう支援している。コロナウイルス感染状況を見ながら、外出の機会を確保できるように検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得て施設で管理している。個人所有は行っていない。希望がある場合は職員が預かり金から購入させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して自由に使っている方もいる。家族や知人に手紙を書いてやり取りしている方も。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先とホールに季節を感じられる小物を飾り付けている。廊下の突き当りにソファを置いてくつろげるようにしている。	共用空間は天井も高く明るさもあり、観葉植物の鉢植えを随所に飾る等、利用者が居心地よく過ごせるように工夫されている。食堂の他にも2か所にソファが設置されており、一人でゆっくり過ごしたり、仲間同士で話せる空間が作られている。利用者が作成した方言集などの掲示もあり、家庭的な雰囲気づくりの中でも、利用者が楽しんで過ごせる工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと廊下の突き当りにソファを設置し、くつろげるようにしている。廊下のソファは利用者様の休憩場所になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の生活で慣れ親しんできたなじみの物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるようにして頂いている。	居室は広く洗面台とベッドが備え付けられている他は、自宅から使い慣れた家具や大事にしていた飾り物などを持ち込んでもらい、一人ひとりが居心地良く過ごせるように居室作りが行われている。職員と一緒に作った作品や誕生日カード、家族写真などを利用者の希望によって壁面に飾ったり、お寺に行く事を希望する利用者には、クローゼットを仏壇に見立てて工夫する等の対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の意欲を踏まえたなかで支援を心掛けています。各居室の入り口には大きく名前を提示し、分かりやすくしている。トイレや浴室も分かり易い言葉で工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				